

(23) 麻痺性貝毒の機器分析法の高度化及びスクリーニング法の開発

予算

農林水産省消費安全局：安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究委託事業

概要

大阪湾では近年、春季に有毒渦鞭毛藻 *Alexandrium tamarense* の増殖による二枚貝の毒化が多発しており、他の海域ではあまり例のない天然のアカガイ、トリガイが毒化している。これら二枚貝は種ごとに毒化、減毒過程が異なること、毒化の時期により毒成分の組成が変化することなどがこれまでの調査で明らかになっている。そこで、*A. tamarense* で毒化した貝種ごとにイムノクロマト法を用いた簡易分析キットで分析を行うとともに、公定法（マウスアッセイ）やHPLC法でも分析し、スクリーニングレベルを検討した。2018年度は、大阪湾で *A. tamarense* により毒化したマガキにおけるイムノクロマトの反応性を確認した。大阪湾で採取したマガキについて、公定法により4MU/g以上の毒力を示した毒化初期のサンプルを4MU/g、2MU/g、1MU/gに調整し、異なる希釈倍率においてイムノクロマトの反応性を確認した。その結果、2MU/gでは50倍希釈液で、4MU/gの100倍希釈で陽性反応（－）が得られたことから、それぞれの希釈率が2MU/g、4MU/gのスクリーニングに適用可能と判断された。

担当者

山本圭吾、横松宏幸、上田真由美